

【FDCと私 ～FDC開館までのアプローチ～】

安藤 暢康(元愛知県産業労働部技監)

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）開館20周年、おめでとうございます。

いうまでもなく、FDCは地場産業、とりわけ繊維産業に係わっている多くの人々、地元行政や経済団体・商工団体の方々の熱き思いによって建設されました。

昭和40年代の後半の高度成長期、対米繊維問題、ドルショック、オイルショックの中で、「産業の知識集約化」が叫ばれました。個性化、多様化、高級化しつつある消費者ニーズに対応したモノづくりが叫ばれ、特に繊維製品についてはファッション化が必要になってきました。そういった動きの中で、尾張西部地域においては、40年代の終わりごろから「ファッションセンター」をつくりたいという声があがりました。その声を受けて、尾西市長であり、尾西毛織工業協同組合理事長でもあった小川四郎兵衛さんが、愛知県議会議員の浅野一郎さんとともに、愛知県や関係方面に働きかけを行い、愛知県の52年度予算に繊維産業振興調査費がつきました。その調査結果を受け

る形で、昭和53年に、欧米における繊維産業のファッション化の状況を調査する調査団（学識経験者、愛知県や一宮市職員、業界関係者などで構成）が派遣されました。その結果は、「当面は、振興事業を先行させよう」というものでした。そこで昭和54年度、愛知県は「ファッション振興基金」を予算化し、ソフト面の準備が始まりました。

一方、昭和52年に尾西市長の小川四郎兵衛さんが死去されましたが、一宮市長の森銆太郎さんが推進役を引き受けてくださいました。その努力の結果、昭和53年秋、「尾張地方繊維振興対策事業推進期成同盟会」が設立され、相前後して、衆議院議員江崎真澄さんが通産大臣に就任され、森市長は大変心強く感じられたと思います。

昭和55～56年にかけて、本格的に動き始めましたが、地元の繊維業界団体や経済団体が集結して「愛知県繊維振興協会」が設立され、一宮商工会議所会頭の豊島半七さんが会長を引き受けていただきましたことも大きな励みになりました。

FDC前史・財団設立まで…

昭和53年	11月25日	「尾張地方繊維振興対策事業推進期成同盟会」設立。
	12月12日	「県立・県営による繊維総合ファッションセンターの建設」に関して愛知県知事、県議会議長等に陳情。
	12月19日	「繊維総合ファッションセンターの建設に対する協力について」通産大臣等に要請。
昭和56年	1月31日	「県尾張繊維技術センターの施設拡充及び用地確保について」県知事、県議会議長等に陳情。
	5月12日	繊維業界の需要開拓、人材育成等を目的とする「愛知県繊維振興協会」設立。
	10月 2日	「同盟会」正・副会長会開催。国の地場産業振興センター制度を活用してセンター建設を実現することに決定。
	10月19日	「同盟会」総会開催、名称変更及び規約の一部改正を決める。新名称「尾張地方地場産業振興センター建設推進協議会」。
	10月29日	「地場産業振興センター建設の箇所決定について」名古屋通商産業局に陳情。 「県尾張繊維技術センターの施設拡充及び地場産業振興センターの誘致について」県知事、県議会議長に陳情。
	11月 9日	「地場産業振興センター設置の箇所決定について」通産大臣、中小企業庁長官等に陳情。
昭和57年	2月26日	「推進協議会」より「尾張西部地域地場産業振興計画」を県に提出。
	6月29日	中小企業庁の中小企業近代化審議会において建設地が一宮市に決定。
	7月19日	財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター設立発起人会開催。
	8月 7日	財団法人の設立が認可される。
	8月16日	財団法人の設立登記完了。